

【保存版】

猫のための防災マニュアル

ご存知ですか、災害時のペットとの同行避難は飼い主の義務です。

猫舌出版

はじめに

日本はペット大国であると同時に、地震大国、台風大国でもあります。

阪神淡路大震災以来、災害時にペットのニュースが多く伝えられるようになりました。

地震や大雨、台風などの災害時、飼い主と離れ離れになったペットを公的機関やNPO法人などが保護するために、多大な労力と時間を要したり、ペットが負傷したり、衰弱・死亡した例を受け、2013年8月20日、環境省は「災害時におけるペットの救護対策ガイドライン」を作成しました。ガイドラインのなかには、「災害が起こった時に飼い主はペットと同行避難することが基本であるため、平常時からそれに備えるべき対策についての意識をもち、ペットの安全と健康を守るとともに、他の避難者への迷惑にならないように努めなければならない」と、記されています。

災害時にはペットを連れて非難することとは、今や常識であり、飼い主の義務でもあります。

「万が一」のとき、猫や犬と、素早く、しかも離れ離れにならないようにスムーズに避難するためには日ごろの準備が不可欠です。

2017年のある調査によれば、猫の飼育世帯数は546万世帯、飼われている猫の数は953万匹、1世帯平均で1.74匹の猫が飼われています。日本には5340万世帯ありますから、地震や台風などで体育館に100世帯が避難したとすると、18匹の猫もその体育館にいつしよに避難することになります。避難だけでなく、普段、ねことに慣れていない人々と過ごす際、猫がストレスを感じないように、また周囲に迷惑をかけないように配慮をする必要もあります。

いざという時、愛する猫を守るために、災害時に同行避難の準備をしておきましょう。

もくじ

はじめに

第1章 熊本の大地震で、猫たちに起きたこと

第2章 災害時のために飼い主が行うべき対策について

第3章 猫の災害対策 どこまで準備できていますか？ 猫の災害対策チェックシート

第4章 いざという時のための猫用の防災グッズ 基本3点セット

第5章 防災の予行演習に 猫と外出するときの大事なポイント

第6章 ネコを守るための防災対策 これをやっておくとけっこう安心

第7章 ネコを守るための防災対策 これをやっておくとけっこう安心 生活編

第8章 外出時の「猫をキャリーケースに入れられない！」問題を解決する

第9章 災害時のために 猫にケージ好きになってもらうコツ

第10章 いざ猫と避難！ もしもの災害に備えたみんなの猫の防災アイデア

第11章 猫のための避難バッグ必需品 チェックリスト

第12章 緊急災害時 猫は何を思い、どう行動するのか？ 気になるQ&A

第13章 猫の災害ストレス 大震災時の猫のメンタルケアを考える

第14章 災害時に逃げる時に役に立つ「猫に「おいで」を教えておこう

巻末付録 「猫といっしょに避難するための「おすすめ避難アイテム」

第1章 熊本の大震災で、猫たちに起きたこと

2016年4月14日21時26分、熊本で起きた震度7の大震災は、さらに2日後の16日未明にも同規模の大震災が続くという前代未聞の震災となりました。

人間ももちろんたいへんでしたが、猫にとっても過酷な状況でした。

環境省では地震災害が起きた時を想定して、ガイドラインで飼い主とペットの「同行避難」を定めていますが、熊本大震災ではたして同行避難は可能だったのでしょうか？

実際に猫たちはどこで過ごしていたのでしょうか？ 猫を飼っていた人はどうしたのでしょうか？ そのリアルな体験をご紹介します。

■県の動物愛護センターに集まった250匹の猫たち

じつは熊本で大地震が起きた4月は猫にとって発情期のシーズン。

それと大地震が重なったことによつて、迷い猫と出産が重なることに。迷い猫が産んだ子猫たちが一斉にセンターに集まつてしまい、一時は250匹以上もの子猫が保護されることになりました。

スタッフの多くは24時間体制で猫の世話をしなければならなかったそうです。

震災などの緊急時は複数の猫を一つのケージに入れて施設内で収容しなければならぬケースが少なくありません。日頃から避妊、去勢、ワクチンの接種はしておかないと大変な状況になるおそれがあります。

■東北大震災の教訓で増改築していたため対応できた県内の動物病院

熊本県内でも最大規模の大きさを誇る龍之介動物病院では、東日本大震災が起こった時、万が一熊本でも地震が起きるかも知れないと病院を増改築していました。

そのおかげで地震の際には、ペットと飼い主さんが同伴で避難できる場所としていち早く病院を開放し、多くの飼い主さんとペットが院内に避難してきました。

さらに地震後も被災地で野生化してしまった猫の往診や飼い主さんの心のケアなどをすることができました。

■ 80匹の猫を受け入れた猫カフェ

熊本のある猫カフェでは一時営業を停止。その代わりに、飼い主さんの都合でいつしよに暮らせない猫の一時預かりを開始。多いときは80匹もの猫を預かったそうです。

万が一の受け入れ先に、猫カフェという選択肢があることを覚えておくとも良いかも知れません。

■ 震災後、行方不明になった猫が戻ってきた！

不案な思いで何日も過ぎた飼い主の方も少なくありません。

「震災時に外出していたため、慌てて帰宅したら家は全壊。家の中にも外にも飼い猫の姿は見えませんでした。不安を感じながらもとりあえずフードだけ置いて避難場所に移動、愛猫を発見できたのはその2日後でした。瓦礫の重くなった部屋の隅でじつと固まっているのを見つけたときは本当にびつくり。嬉しい反面、さぞかし怖かっただろうと思うとかわいそうで泣いてしまいました」

スロティッシュフォールドを飼っていた○さんのコメントです。

猫は震災直後は驚いて逃亡しますが、数日後は自分の縄張りに帰ってくる習性があるようです。

環境省のガイドラインで「ペットと同行避難」と定められても、日ごろからきちんと準備をしていなければ、愛する猫と離ればなれ、どこにいったのか判らないということになりかねません。

まさかの大地震が起きたとき。愛猫とはぐれてしまったら、まずは都道府県の動物愛護センターに問い合わせましょう。そこで収容が確認されなかった場合、もし見つからない場合は、近隣の動物病院や猫カフェなどに問い合わせてみると愛猫を発見できるかも知れません。

まずは、なによりもその前に同行避難の準備を怠りなくしておきたいものです。

第2章 災害時のために飼い主が行うべき対策について

環境省が定めた「災害時におけるペットの救護対策ガイドライン」では、災害時のために飼い主が準備しておく対策として、次のような項目があげられています。

■平常時

- 住まいの防災対策
- ペットのしつけと健康管理
- ペットが迷子にならないための対策（マイクロチップ等による所有者明示）
- ペット用の避難用品や備蓄品の確保
- 避難所や避難ルート確認等の準備

■災害時

- 人とペットの安全確保
- ペットとの同行避難
- 避難所・仮設住宅におけるペットの飼育マナーの遵守と健康管理

では、具体的にどのように準備をしておくべきか。そのポイントをご紹介します。

第3章 猫の災害対策 どこまで準備できていますか？ 猫の災害対策チェックシート

猫の災害対策には日頃の防災意識が肝心です。
まずは、現在の猫の状況について、こちらのチェックシートで確認してみてください。

■愛猫のための防災意識チェック！

下記の質問にYESと答えられるのは何問あるかチェックしてください。

- ☐ いつも猫がどこで寝ているかを把握している
- ☐ 室内飼いでも連絡先の迷子札をつけている
- ☐ ワクチン接種は毎年必ず受けている
- ☐ うちの猫はキャリーを見ても逃げない
- ☐ 緊急時には預かってくれる知人がいる
- ☐ 最寄りの避難場所がどこか知っている
- ☐ 猫用の非常食と水を買って置きしている
- ☐ 猫の成長記録をマメにつけた猫の健康手帳を持っている
- ☐ うちの猫はお客さんが来ても逃げない
- ☐ 猫の癖や健康状態を把握している

チェックリストのYESの数が該当する項目をご覧ください。

■YESが3個以下

YESが3個以下のチェックしか付かなかった人は、超うっかりタイプの飼い主さん。

災害は他人任せではいけません。このままの意識では、猫どころか自分の身の安全すら難しいかも。今からできる対策をすぐに始めましょう。

■YESが4から7個

防災意識は普通にある飼い主さんです。

ここでチェックできなかった項目を見直して達成できるようにしておきましょう。

「いつかやろう」ではなく、気が付いた時に今すぐ始めることが肝心です。

■YESが8から10個

災害対策はバッチリの優等生の飼い主さんです。素晴らしい！とはいえ、準備さえしておけば乗り越えられるほど災害は甘くはありません。

普段から想像力を働かせ、あらゆる非常時を想定して常に最善策を考えておきましょう。

猫の防災対策 はじめの一步

知らなかった、では済まされないので猫の防災対策。

「もしも今、地震が起きたら…。」という目線で周囲を見回してみましよう。室内で危険な場所はありませんか？
まずはこれから紹介する3つのポイントをはチェックしておきましょう。

■猫が寝ている場所の安全を確保する

いつも猫が寝ている場所は安全ですか？

地震が来た時、倒れた家具の下敷きになったり、上から重い電化製品が落ちて来たら危険です。

落下して危険なものの上には置かないようにしたり、すべり止めを使いましょう。大型の家具は転倒防止の対策をしておきましょう。

猫がいつも逃げる場所を把握して、そこにキャリーケースを置いて猫のハウス代わりに使うと避難もスムーズです。

そして忘れてはいけないのがガラスの飛び散り対策。まさかの時に窓ガラスが割れて猫が飛び出す可能性がります。絵の額縁や窓ガラスには飛散防止フィルムを貼っておくと安心です。

また、留守中に地震が起こった時のことを想定して、部屋のドアや押入れを開けておいて、猫の避難所を増やしておくのもおすすめです。自分が留守の時も考えた室内環境対策は必須です。

■ふだんから首輪や迷子札を付けておく

災害時に猫とはぐれてしまった場合に効果を発揮するのが首輪と迷子札です。

阪神大震災や東日本大震災の時、飼い主とはぐれて迷子になり保護された猫が多くいましたが、その大半が迷子札をつけていなかったとか。

そうになると、飼い主を探し出すのはとても困難となります。日頃から首輪と迷子札を付けておく習慣があるとベストです。

首輪は室内用で猫の負担の少ないものを選んでいるという方もいらつしやるかと思いますが、災害時を想定して迷子札も普段から付けさせることをおすすめします。災害時は高い確率で愛猫とはぐれてしまうことが予想されます。なかには、「外に逃げてても文字が消えない彫るタイプの迷子札に変えました」「首輪に油性ペンで連絡先を書いて迷子札も付けました」という飼い主の方もいらつしやいます。

どうしても首輪を嫌がる猫の場合は、マイクロチップを装着するのも今は一般的です。動物病院で相談してみてください。

■キャリーやリードに慣らしておく

避難したら集団生活になるはず。キャリーとリードは必須になります。普段とは違う環境に加え、慣れないキャリーやリードを付けたとなると、猫のストレスは高まるばかり。あらかじめキャリーやリードに慣らしておく習慣をつけておくと安心です。

猫のキャリーは日頃から部屋の隅に置いておき、おもちゃや、時々中でおやつなどをあげて「自由に出入りできる楽しい場所」という印象をつけておきましょう。

キャリーはいざという時運べる「軽さ」も重要です。軽くて持ちやすいキャリーで、猫にストレスを与えない狭すぎず広すぎない空間を確保できるキャリーにしましょう。そしてできれば、「おちつくネット」とセツトで用意しておく猫を運ぶ時に役に立つはず。

リードはできれば子猫のうちから慣らしておくのがコツです。時々リードをつけて室内を歩かせてみたり、人のいない早朝に、実際に外を歩いてみるのも良いかも知れません。

これらのことは愛猫を災害から守るための、防災対策の基本中の基本です。

このほかにもワクチン接種やノミ対策、非常時の持ち出し袋は猫の分も用意しておく、そしてできれば、家族で1年に1度くらいは防災会議をしておく目安です。

猫といっしょに避難するには、家族との連携プレーが大切。特に複数の猫を多頭飼いされている場合は、あらかじめ猫ごとの担当を決めておいても良いかも知れません。

いつあるかわからない地震・災害。あらゆるケースに対応できるようにしておきましょう。

第4章 いざという時のための猫用防災グッズ 基本3点セット

台風などの被害が毎年起きているうえに、「日本のほとんどの地域で、大地震が起きる可能性がある」と言われているにもかかわらず、目の前でノンビリと昼寝している愛猫。その平和な顔を見てみると、「まあ、なんとかなるか…」なんてつい思ってしまう。しかしそれでは大事な愛猫と犬、子供は守れません。

後悔先に立たず！ というわけで、いざという時のための猫用の防災グッズの基本を紹介します。

いつもぼおつとして犬よりも落ち着いて見える猫、でもじつは猫は犬よりもずっと神経質。そんな猫のために猫用の防災グッズがあります。

来たる台風や地震などの災害に備えて、猫に必要な防災基本セットを用意しましょう。

■猫に必要なのはフードよりも「水」

猫は臆病な生き物です。そして日常の変化を嫌います。

そんな猫ですから、大地震で自分の日常の環境が変わってしまったら、かなりのストレスを感じます。

猫はストレスを感じると、まず猫はご飯を食べなくなります。ある家の猫が住み慣れた家から脱走して初めて外に出た時、運良く、見つけられて、飼い主の方から目の前にフードを差し出されても猫がまったく口をつけようとしなかったという話を聞くことがあります。

猫はご飯を食べるよりも安心できる環境を最優先する動物なのです。

しかし安心安全な環境が確認できないからご飯を食べない、という状況でも、水は飲みます。人間もそうですが、水分は生命の維持には不可欠なのです。

災害が起こった時、断水になるというケースは決して少なくありません。そんな時に備えて「水」は必ず備蓄しておきましょう。

過去の大地震が起こったときを振り返ってみると、被災地には日本中の人々からさまざまな災害支援物資が送られました。中長期的には猫のフードも必ず手に入ります。まずは短期的な対策として水を確保しておきましょう。

水を備蓄する際、ミネラルウォーターの選定でひとつだけ注意があります。

「猫にミネラルウォーターはあげてはいけない」という言葉を耳にされたことがあるかもしれません。

すべてのミネラルウォーターというわけではありませんが、なかには与えないほうがよいミネラルウォーターもあります。それは日本ではあまり多くない「硬水」です。硬水のミネラルウォーターだけは猫に与えると尿路結石など、泌尿器系の病気の原因になりますから与えないようにしてください。

日本製のミネラルウォーターであればほとんど大丈夫です。

■安全な隠れ場所「ポータブルキャリー」

猫用の防災グッズとしてポータブルキャリーも必須です。

防災グッズで大切なのは重くないこと。そして持ち運びがすぐにできることが重要です。たとえば猫壺のポータブルキャリーは重さがたつたの438g。ペットボトル1本分よりも軽く、そして折りたたんで収納できるコンパクトサイズながら、広げると大きさは25センチ×25センチ×46センチ。猫を入れても十分なスペースを確保できます。

これくらいのスペースがあれば、いざ、というときでも猫にストレスを与えることはありません。狭すぎず広すぎない空間を確保できます。お値段も、ペット用のキャリーの中でもお求めやすい価格帯なのでおすすめです。

災害用の備えにもなりますが、普段から使って猫に慣れさせておくことでより安心です。ひとつ持っていても損はしません。

■ポータブルキャリーが苦手という猫のための「おちつくネット」

猫の中には「絶対にキャリーは嫌い」というキャリー嫌いの猫もいます。

キャリーを柵から取り出す音を聞いただけですつ飛んで逃げて行くビビリな猫もいます。

これではイザ！というとき、キャリーに入れて避難することはできません。

そんな時に重宝するのが「おちつくネット」です。見た目はタダの「洗濯ネット」のようですが、使ってみれば分かります。このおちつくネット、お値段以上に優秀です。

「おちつくネット」を選ぶ上で大切なポイントとは、まず最初に色。猫壺の「おちつくネット」は、洗濯ネットにはあまりない「黒」というカラー。これは猫が中に入った時に一番落ち着く色。猫は自分の身が隠れる程よい大きさの場所や暗闇が大好き。猫壺のおちつくネットはこの猫の気持ちをよく考えて作られています。

そしてふたつ目のポイントが適度な張りに耐える「強度」があること。洗濯ネットに猫を入れると、ネット自体が柔らかいため、中にいる猫に絡みつきます。強度があるとしつかりと中の猫をホールドしつつ、空間を維持することができます。

普段からおちつくネットに愛猫のお気に入りの毛布を入れ、部屋の間隔に置いておきましょう。

猫のお気に入りの場所として、猫壺の落ち着くネットの中で時々おやつなどをあげるとより効果的です。

■プラスワンとしておすすめの「ポータブルケージ」

猫の防災グッズで、プラスワンアイテムとして、できれば用意しておきたいのがポータブルケージ。できれば猫が2匹入って、なかにトイレも設置できるくらいのが大きさが理想です。

猫の防災グッズを選ぶ基本

猫の防災グッズを選ぶ基本は、まず持ち運びが簡単なこと、そして普段から猫が利用しやすい物、そして猫目線で使いやすさと機能性に優れていることは絶対条件。

もし災害が起こった時。すぐに避難しなければならないとしたら、猫にとって何が必要なのか。ぜひぜひ考えてみてください。

先にご紹介したほかにも、病気の猫の場合は「薬」が必要でしょう。外を歩ける猫なら「ハーネス」を用意しておく心安心ですよ。

猫によつて必要なものは違います。

うちの猫だったら？と想像して、必要なものを用意してあげてください。

第5章 防災の予行演習に 猫と外出するときの大事なポイント

家の中ではわがまま放題でも、じつは自分の縄張りから出るのを嫌う内弁慶な猫。猫と外出するのは本当にたいへんです。

もしも地震が起きて、家から出なければならなくなった時。どうしても旅行に連れて行かなくてはならなくなった時。そんな「もしも」に備えて猫と準備をしていますか？

猫と外出したことがない、という飼い主さんもいるかも。今回は、猫と外出するときの大事なポイントを紹介します。

■まずは持ち物をチェックしよう

まずは乗り物移動するときに必要な持ち物をチェックしておきましょう。猫に絶対に必要な持ち物とは、この8つです。

1. 水・フード
2. ハーネス・リード
3. キャリーケース
4. 保冷剤またはカイロ
5. ゴミ袋・ティッシュ
6. おもちゃ
7. 布・タオル
8. トイレシート

このに、もしあれば便利なものとして、

●猫用の酔い止めの薬

●ビニール手袋

●消臭剤

●粘着ローラー

●ポータブルトイレ

があると安心です。

■外出前に慣れさせておく3つのポイント

いつ猫と外出することになるかわかりません。日頃から、空いている時間に猫とシミュレーションしておくことで安心です。

まずはキャリーケースをいつも猫が過ごしている部屋に置いて、慣れさせておきましょう。猫がくつろげるようにお気に入りの毛布などを入れておくのもベストです。

そして部屋の中でハーネスをつける訓練をしておくことも大切。猫は自分の体に何か付いている状態に慣れていません。いざ、というときに暴れて逃げ出さないように、少しずつ訓練しておくことが大切です。

そしてこれも大切ですが、外出先で使う「ポータブルトイレ」を日頃から使わせてみてください。猫は繊細な生き物です。慣れていないトイレでは排泄しない可能性があります。

ポータブルトイレに、猫の匂いが付いていると安心するはずですよ。

猫とお出かけをする時。移動手段が、車か電車か飛行機かで猫の運び方には違いがあります。猫のストレスをできるだけ最小限に抑えて、快適に移動するための大事なポイントをご紹介します。

■車で猫と移動する場合

長時間のドライブになる場合、ポータブルキャリーよりも、大きいポータブルケージの方が猫がくつろげます。しかしキャリーケースに入れる時と同様、ハーネスとリードは付けて置いた方が良いでしょう。

車で出発する前に、最短ルートの確認と渋滞情報、そして途中で休憩できるスポットも確認しておきましょう。猫といっしょに移動する場合、長時間のドライブなら30、1時間ごとに車内の空気を入れ替えたり、猫の様子に変化がないか確認することも大切です。

猫を載せる前に、窓ガラスにはシェードを、そしてカーエアコンはあらかじめ付けて置いてください。

暑いときはキャリーの上に保冷剤などを、寒いときはホカロンなどを用意しておくことで安心です。キャリーやケージは空調が効きやすい座席の上に置いて、シートベルトでしっかりと固定してくださいね。

■電車で猫と移動する場合

電車で猫と移動する場合は、まずは2人の場合にはペット料金がかります。

キャリーのサイズは70×90で10kg以内。その大きさなら手荷物扱いで1個につき280円となっています。しかし都営地下鉄や東京メトロなどの2人以外の電車の場合は無料のところとそうでない会社があります。乗車前に確認しておくとうれいでしょう。

電車を待つ間、乗っている間は猫のキャリーの上にバスタオルなどを被せて、外界から遮断してあげると猫が落ち着きます。

座席に座ったときは、飼い主さんの膝の上にキャリーを乗せるのがベストですが、隣に座った方が猫嫌いの場合を考えて足元に置いておくと安心です。

できるだけ先頭車両や最後尾の隅に立つて他の乗客の迷惑にならない配慮も必要です。

■ 飛行機で猫と移動する場合

国内線の場合、ANAの場合はペットは一律6000円（一部では4000円）ですが、JALの場合は路線によって料金が異なります。（2016年現在）

ANAの場合はウエブサイトからペットの搭乗予約と同意書の提出ができます。JALは当日の出発時刻の30分前までにペットカウンターに同意書を提出します。

ペットは手荷物扱いとなり、航空機の貨物室に積まれます。しっかりと固定されますが、万が一のことを考えて、猫のキャリーは頑丈で壊れにくいものを選んだ方が安心です。

第6章 ネコを守るための防災対策 これをやっておくとけっこう安心

いつ起こるか分らない地震、災害。

『ネコを守るための防災対策 コレだけはやっておきたいポイント!』をご紹介します。

マイクロチップはネコの住民票

東日本大震災のとき、マイクロチップを装着していたペットほど飼い主の元へ戻れる確率が高かったといえます。

また、阪神・淡路大震災があつた兵庫県ではマイクロチップを装着させる飼い主が多いとか。ヨーロッパでは義務化がすすんでいるマイクロチップは、いわば「ペットの住民票」のような物です。

体内に装着すれば、30年は機能すると言われています。費用は数千円、登録料は1000円かかりますが、自治体によっては助成金が出る地域もあります。

これがあるのとないのでは、もしもの時の運命が大きく変わるかも。ぜひ検討されてみてはいかがでしょうか。

去勢・避妊・ワクチン接種

うちは完全室内飼いだから大丈夫…。と安心していられるのは平和なときだけ。非常時は何日も外で他のペット達と同じ場所で過ごすことも考えられます。

自分の愛猫が避妊、去勢していない場合はどうなるか、わかりますよね。また非常時はネコも人間もストレスや疲労で免疫力が落ちるはず。普段よりも病氣、ウイルスに感染する可能性は高くなります。年に1度のワクチン接種、健康診断はやっておいた方が安心です。

普段から「クレートトレーニング」をやっておこう

避難場所では原則、ペットはケージの中で過ごすことになるはず。クレートトレーニングとは、キャリーやケージに慣れさせておくトレーニング。万が一の場合のネコのストレスを減らすためにも非常に重要な訓練です。

訓練と言っても方法は簡単。リビングやお気に入りの場所にキャリーやケージを置いておき、普段からネコが気軽に中に入る工夫をしてあげましょう。

おやつはケージの中であげるなど、ネコが喜ぶ工夫をしてあげると良いでしょう。

第7章 ネコを守るための防災対策 これをやっておくとけっこう安心 生活編

『ネコを守るための防災対策 コレだけはやっておきたいポイント!』の日常生活編をご紹介します。

捨てる・整理整頓

毎日の生活の中で、ついつい買ってしまったうろのモノ。いつ使うの?と自分に聞きたくなるおかしい雑貨から、読まない本、使わない食器、何年も着ない洋服などが、あなたの部屋を占領していませんか?

防災対策の基本は家の中をすっきりさせておくこと。要らない物は捨てる。毎日いつ災害が来ても大丈夫なように整理整頓を心がけましょう。

掃除が苦手……。というあなた。それなら買うのを控えて、要らない物を捨てる努力をしましょう。モノが少なければ掃除もラク。

どんどん溜め込む癖をやめて、「災害時に持っていく物」をあらかじめ厳選したら、その他のモノはどんどん処分していきましょう。

もったいない、と思つても、災害がくれば一網打尽。全てを失くしてしまうかも。それなら自分の手で処分するほうが気持ちもすっきりしますよね。

ローリングストック法を習慣にしよう

ローリングストック法とは、備蓄の食品の期限切れをなくす方法です。

まず、最初に4日12食分の備蓄食を用意します。それを毎月1食分ずつ食べるようにします。この食べた分だけ新たに補充して行く事で、1年で用意した備蓄食が入れ替わることになります。

このローリングストック法を習慣にしていくと、備蓄していた食材の期限切れをなくすることが出来ますし、月に1度保存食を食べることで、新たに災害についての強い危機管理を自分に促すこともできます。

これはネコの備蓄用のフードに対しても同じことが言えます。人間もネコも活用出来るローリングストック法をぜひ習慣にしてみてください。

ネコの安全地帯を確保しておく

急な地震の時、ネコが驚いてソファの下から出て来なかつた…。よく聞く話ですよ。とつきの災害時、ネコをつかまえて同行避難させるのはかなり至難の技。日頃からネコの安全地帯を確認しておきましょう。

何かあつた時にネコがどこに逃げるのかを飼い主が把握しておけば、万が一の時にもスピーディに対応出来ます。ソファの下に隠れるのを習慣にしているネコちゃんなら、ソファの下にネコが隠れやすそうな紙袋を置いておき、ネコがその袋に逃げ込んだらさうと袋を掴んでいっしょに逃げ出せる様にしておくと良いかも知れません。いかがですか。ネコを守るための防災対策。ネコの命を守るのは飼い主だけ。普段からちよつとした習慣をつけておくと安心です。

第8章 外出時の「猫をキャリーケースに入れられない！」問題を解決する

猫が嫌いなもの、キャリー・雷・火事・子供。

「猫をキャリーケースに入れられない」という悩みは、「猫の爪切りができない」という悩みと同じくらい耳にします。

通院した経験がある猫の場合、キャリーケースに嫌な記憶が残っているとという可能性もあります。

飼い主さんが猫をキャリーに入れる時に困るのは、

- ・猫の全身に力が入ってキャリーに入らない

- ・猫が暴れて捕まえられない
の2つではないでしょうか。

じつはこれ、あるワザを使えば簡単に解決できるのです。そこでこの2つの方法をご紹介します。

■猫の全身に力が入ってキャリーに入らない場合

キャリーケースの中に入れられまいと、入り口に足をかけて踏ん張る愛猫。

この場合のポイントは、「猫の足をしっかりと持つて動きを制御すること」。

飼い主さんは、まず猫の後ろから近づき、前足をしっかりと持つてください。そのまま猫の体をすくいあげるようにして後ろ足も持ちます。

前足、後ろ足をしっかりと固定して、

- ・上フタ式のキャリーケースの場合は猫のお尻から入れる

- ・横フタ式のキャリーケースの場合は猫の頭から入れる

のがポイントです。

■猫が暴れて捕まえない場合

普段から抱っこなど、体を拘束されることを嫌う猫ちゃんの場合、捕まえようと飼い主さんが思っているだけで、危険を察知して逃げる場合もあります。

まず飼い主さんが気持ちを悟られないよう、リラックスしてください。普段と同じ気持ちでバスタオルを持って近づき、猫の全身を覆います。

猫の前足をしっかりと持ち、体の下に手を入れてバスタオルに包みます。そのまま、

- ・上フタ式のキャリーケースの場合は猫のお尻から入れる
 - ・横フタ式のキャリーケースの場合は猫の頭から入れる
- のがポイントです。

■最も簡単な方法は

もっとシンプルで簡単にできる方法もあります。

それは、「落ち着くネット」を使うことです。

これは洗濯ネットのような形状ですが、カラーは猫が落ち着くブラック。そして程よい張りとし硬さが、猫の体にまとわりつかず、中にいる猫を快適に保ちます。

使い方は、チャックを開けて、遊び感覚で猫をその中に入れるだけ。猫はもともと袋状の物に入るのが大好き。普段から遊び感覚で鳴らしておけば、イザ！という時にも簡単に入れることができるでしょう。

この落ち着くネットに猫が入ったら、猫の毛を挟まないように気をつけてファスナーを締めるだけでOK。

そのままネットごと持ち上げてキャリーケースに入れてください。この方法は、ネットに入れたまま病院で診察もしやすいと、獣医の先生にも好評です。

第9章 災害時のために 猫にケージ好きになつてもらうコツ

犬猿の仲、と言えば犬と猿のことですが、猫にとつてみたらそれはきつと「猫のケージ」ではないでしょうか。

狭いところに入るのが大好きな猫が、ケージを見た途端に逃げて行く、そんな光景は全然珍しくありませんよね。災害時の同行避難のことを考えると、ケージに猫を慣らす事はとても大切です。普段から猫にケージを慣れさせ、できれば猫が自分からケージに入ってくれるような訓練をしておきましょう。

猫にとつてどんなケージなら好ましいのか、猫にケージ好きになつてもらうコツをご紹介します。

猫が好きなケージのポイント

ネコは人間に比べて視力はあまりよくありません。おおよそですが0.3程度だと言われています。

猫の能力の中で一番優れているのが聴力。20メートル先の虫の歩く音も聞こえるという優れた聴力が猫の一番の武器。周りの情報も目ではなく耳から仕入れることも多いのです。

そんな猫にとつて、狭い空間でも耳をピンと立てておける高さ、音が拾えるように上が開くタイプのケージはとて有り難いでしょう。そしてケージの中でも聴力が妨げられない空間のあるケージなら、猫も中でリラックスできます。

ケージの大きさは幅よりも高さが大事

猫が広々と遊べる様に、と飼主はワイドサイズのケージを購入しがちです。しかし猫に必要なのは、安心して熟睡できる高い場所。にゃんこは高い所にいると落ち着く習性があるので。

なるべく背の高いキャットタワーが入るケージを用意してあげましょう。幅よりも高さが大事。しかし日当りの良い窓辺に設置するときは、季節によつては太陽の光が強すぎることも。

レースのカーテン越しの日光でもお猫様は充分満足できます。さらにやんちゃな猫でも満足するような遊びゴコロのあるキャットタワーを選んであげると良いでしょう。

ケージの中に身体を隠せる場所を作る

猫はもともと木の穴のような暗くて丸い巣穴のような場所で身を隠して暮らしていました。猫が段ボールを見るとついつい潜り込むのはその名残り。ぜひケージの中にも猫がすっぽりと身を隠せるスポットを用意してあげて下さい。猫が身体を隠せる場所があると、例えば真夏のエアコンが効きすぎるとき、反対に部屋の温度が寒くて昼寝がしにくいときに快適な空間を作ってくれます。

飼い主が不在の時は猫も何となく不安。その場合も身を隠せるスポットがあると、猫が安心してリラックスできる場所になります。

猫は避妊・去勢を考える

もしケージ生活が長引きそうなら、猫の避妊・去勢をしておいた方が安心です。すべての猫にいえるとは限りませんが、一般的に避妊・去勢をした猫は、性格が穏やかで行動ものんびりした猫になります。

ケージ生活が長くなつてもストレスをあまり感じないかもしれません。反対に避妊・去勢していない猫は、外で他の猫の鳴き声が聞こえただけで興奮し、ケージの中で暴れる可能性があります。万が一怪我でもしたら大変。飼い主さんはよく気をつけてあげて下さいね。

第10章 いざ猫と避難！ もしもの災害に備えたみんなの猫の防災アイディア

地震、津波、大洪水、台風、高潮、ゲリラ的な集中豪雨。山崩れ。火山の噴火。

なんだか最近の日本は災害が多くなりましたよね。

将来、東京を含む関東圏に大地震が起こる確率は80%というニュースがあつたかと思えば、地球温暖化のせいかな、ゲリラ豪雨があちらこちらで起こって、大雨によって引き起こされる山崩れや堤防の決壊など。いつ何が起きるかわからない災害大国日本。

皆さんは、ちゃんと防災の備えをやっていますか？

人間用だけではなく、愛猫のための、「猫の防災対策」も必要です。

もし災害が起こった時、猫に「慌てないで！」というのは無理な話。猫はパニックになつて当然。

だからこそ、愛猫を守るように日頃の防災の準備が大切です。

では、猫と暮らしているペテランの飼い主はどんな準備をしているのでしょうか。

「うちはこんな備えをしています！」という「我が家でやっている猫の防災対策」についてご紹介いたします。

■外の物置に猫グッズを備蓄しています。

「まさかの大地震、家が倒壊した場合や、慌てて外に逃げ出した場合に備えて、我が家では外の物置に猫グッズを備蓄しています。」

「猫といっしょだと避難所で暮らすのは難しいと思うので、うちの場合は車のガレージを鉄筋で補強、そこに人間用と猫のグッズを一通り備蓄しています。」

素晴らしい！こんなおうちのニャンコは幸せですよ。

ある雑誌のアンケートの中で、飼い主さんに聞いた一番多かった猫の防災対策が「猫グッズの備蓄」でした。

猫のフード、トイレのシート、器、水は猫の数だけ数日分は用意するのは、猫の防災対策の基本。そしてその中でも、やはり「猫のケージ」はあると便利です。

みなさんは、ケージを選ぶ場合、「持ち運び」を考えて選んでいますか？

片手に愛猫、片手に荷物を持つて同行避難をする場合、荷物はできるだけ軽く、小さい方が素早く逃げるができます。そんなとき、便利なのがポータブルケージとキャリーです。

軽くて折りたたんで、できればワンタッチで、ぐるん！とねじっただけでパツと広がるようなポータブルタイプのケージがオススメです。数日間から数週間というの避難となる可能性を考えると、できれば猫のトイレやベッドも中に収納できるワイドなサイズがおすすめです。

■猫の健康手帳も用意しておきましょう

「もし猫をどこかに預けなければならなくなった時のために、うちの猫の病歴や飲んでいた薬、日頃の体重や好みのフードの名前を書いた『猫の健康手帳』を作ってキャリーケースに1冊を保管。もう1冊はスマホに入れて記録しています。」

アピシアンの猫と暮らす30代の女性の飼い主さんがやっている猫の防災対策がこちら。

健康手帳を用意することです。猫にアレルギーの持病があるため、普段から愛猫の健康チェックや、まさかの時の備えを万全にしているそう。

猫と人間がいっしょに救済施設や避難所で過ごせるとは限りません。愛猫と離れて暮らすことを想定して、猫の健康手帳を用意するのはとても良いアイデアです。猫の防災対策として、ぜひ取り入れることをおすすめします。

■ケージに入れて知らない人にも慣れさせる

「うちのニャンコはとてどもビビリ。私以外の人間が来ると隠れてしまいます。でも災害時は外に連れ出して他人と同居する可能性もあります。他人と慣れさせるために、月に1度程度、キャリーケースに入れて近所の公園やカフェに少しずつ連れて行きます。」

猫を見知らぬ他人に慣れさせることもとても大切です。神経質な猫のために、防災対策として、定期的に人がいる場所に連れて行つてあげましょう。

完全室内飼いの猫の場合、飼い主さん以外の人間は未知の動物。怖いかも知れませんが、他人との接触を普段経験させておくことは、猫にとっては可哀想かもしれませんが、まさかの災害時のパニックを少しでも軽減させられます。

■いざという時の預け先を考えておく

「いざという時に猫を預かってくれる場所を調べています」

猫を預かってもらえるように親戚や友人に頼んでいるだけでなく、なかには、「地方に住んでいる猫好きの友人と、いざという時にお互いに協力しあおうと約束しています」という方もいらつしやいます。

猫の安心できる場所の確保を考えることはとても大切です。今までの災害時でも、避難場所での猫との暮らしは、猫にも飼い主さんにもストレスが大きいことがわかっています。

しばらく離れ離れになつても、安心安全な場所で猫が暮らせるようにあらかじめ考えておくに役に立つはずですよ。

愛猫の防災のためにしている「我が家の備え」をご紹介します。
いかがですか。防災は普段からの備えがものをいいます。

このほかにも、「普段からケージに慣れさせておく」「ワクチン接種は必須」「首輪に名前を書いておく」「マイクロチップの装着」など、たくさんの方の意見もありました。

いざ災害が起こった時、迷わず愛猫と素早く避難するために、猫の防災対策は日頃から用意しておきましょう。

第11章 猫のための避難バッグ必需品 チェックリスト

備蓄品と持ち出す際の優先順位

優先順位1 避難用品、常備品と飼い主&猫情報

●キャリーバッグ

●ケージ

●トイレ

●療法食、薬

●フード、水（少なくとも5日分以上）

●予備の首輪、リード（伸びないもの）

●食器

●ガムテープ（ケージの補修などに使用可）

●飼い主の連絡先とペットに関する飼い主以外の緊急連絡先・預かり先などの情報

●ペットの写真

●猫の健康手帳（ワクチン接種状況、既往症、健康状態、かかりつけの動物病院などの情報）

優先順位2 ペット用品

●ペットシート

●排泄物の処理用具

●使い慣れたトイレ砂

●タオル、ブラシ

●おもちゃ

●洗濯ネット

迷子にならないために

●首輪と迷子札（首輪はひっかかりを防止するために、力が加わると外れるタイプ）
●マイクロチップ

◎災害に備えたしつけと健康管理

●ケージやキャリーバッグに入ること嫌がらないように、日頃から慣らしておく。

●人やほかの動物を怖がらない。

●決められた場所で排泄ができる。

●各種ワクチン接種を行う。

●寄生虫の予防、駆除を行う。

●不妊・去勢手術を行う。

第12章 緊急災害時 猫ネコは何を思い、どう行動するのか？ 気になるQ&A

「ネコは家につく」と言われるくらい、家が好きなネコ。家全体がテリトリーの「自宅警備員」です。一方犬は「人に（飼い主に）つく」動物。ネコのようにテリトリーにはあまり執着しないと言われています。

そのため、おなじベットでも、災害が起こったときの心のケアが必要なのは無理矢理テリトリーから離されたネコの方だといえます。

ただでさえ、家を離れるのが嫌いなネコが、地震、火事、津波などで避難しなければならないときは、おそらく飼い主の想像以上に大変なストレスを感じるはず。

災害が起こったとき、ネコは何を思い、どんな行動を取ろうとするのか、飼い主は知っておくと安心です。

災害別のネコの行動とは

災害の種類によって、ネコの「不安行動」は変わるといえます。主な災害時のネコの行動を覚えておきましょう。

・カミナリ・台風：物陰にひそんであたりがもとの状態になるまでじっとしている。自分が納得するまでは飼い主が呼んでも出て来ない。

・火事：ニャーニャーと鳴きわめく。この鳴き声によって助かる事も少なくない。外に出た事のあるネコなら、逃げて物陰に隠れることが多い。

・地震：短い地震ならその場で警戒姿勢。長い地震のときは物陰でじっとしている。

・津波：急速に接近する津波の場合は、建物の物陰に隠れようとするネコはほとんど助からないとか。浸水してから慌ててテリトリーを捨てて屋根や高台に逃げようとしています。

ネコは地震や災害を予知出来るという説は本当？

▶火事の場合は鋭い嗅覚で「普段と違う」と危険を察知することはできますが、「地震予知」が本当にできるかというと、まだまだ研究段階のようです。

しかし地震や津波の地鳴りを感じて「地震が来る直前に察知する」ことはできるのでは？という飼い主の報告は多く寄せられています。

②災害のあとにネコがやりがちな行動とは？

▶災害時、ネコがやりがちな行動があるといえます。どんな行動が考えられるのでしょうか。

・やたらと甘えて来る：これは理解できますよね。ネコが甘えたいだけ甘えさせてあげましょう。

・あちこちに粗相をする：これはネコがストレスを感じたときによくする行動です。心に不安が残っている証拠。できるだけいつしよにいて安心させてあげましょう。

・狭いところに隠れる：すっかり安心できていない状態です。ネコが安心できるまで、名前を呼んだり構ったりせず、飼い主は普段と同じ行動をして安全な状況になったことをネコに理解させてあげましょう。

いつ来るかわからない、地震・災害。ネコのために、普段から猫の行動パターンをよく理解しておきましょう。

第13章 猫の災害ストレス 大震災時の猫のメンタルケアを考える

日本に住んでいれば絶対に避けて通れないのが地震対策。

食料は意外とどうにかなる！ トイレ・テント・火災グッズを重点的に品揃え。ご近所で災害時に使われる大きな公共施設と、犬と猫が過ごせそうな公園を確認し、災害時のシミュレーションもバッチリ。ご近所とのコミュニケーションもOK。

なんていう人も、予想できないのが、実際に災害が起こった時の「心理的ストレス」。

メンタルケアについては全然考えていなかったという人は少なくありません。

言葉が喋れる人間と違って、犬や猫は「体」「身振り手振り」で自分の感情を伝えるしかありません。

実際に震災を体験した猫がどんな行動をとるのか、そしてどのようなメンタルケアをしたのか、大震災時の猫のエピソードをご紹介します。

■大震災時の猫のエピソード

「愛猫がちょうど発情の真っ最中に阪神淡路大震災が発生。興奮して鳴いていたのがピタッと収まり、私の顔を凝視していました。私の怯えた表情を見て役に立たないと判断したのか、押し入れに飛び込みました。そのまま1日、地震が収まってからもしばらく出て来ませんでした。」（大阪在住・4歳のメス猫の場合）

「地震が起きた時、飛び上がった驚き、部屋中を逃げ回りました。とても捕まえてキャリーに入れる余裕はなく、そのまま人間だけ外に避難。しばらくして戻って見ると、倒れた家具の間で固まっていて、私を見ても興奮してシャーシャー唸り、触らせませんでした。」（神戸在住・2歳と7歳のオス猫の場合）

「3匹の猫と暮らしています。東日本大震災の時、とても猫を連れて逃げる余裕はなく、そのままおいて家を出ました。

家に戻った時、窓ガラスは割れていましたが、それぞれカーテンの陰やベッドの隅、家具の奥などに隠れていて、外に逃げなかったのが何よりの幸運でした。

しかしどの子も全身が硬直していて、その場で失禁している子もいました。よほど怖かったのか、しばらく3匹ともご飯を食べませんでした。」(福島在住・5歳のメス猫、11歳のメス猫、15歳の雄猫の場合)

■災害時の猫のメンタルケア

猫は「昨日のような今日、今日のような明日」が続くことを幸せと感じる動物。突然の生活の変化は犬よりも苦手です。

災害時は、できれば元のような環境を維持してあげられればそれに越したことはありませんが、そうも言うてはいられません。

それならせめて飼い主とのコミュニケーションは以前のように取ってあげると猫も安心します。いつものように声をかけ、優しく触ってあげましょう。

猫へのマツサージが効果的だった、というコメントもありました。もし母猫であれば、こんな時は一生懸命子猫を舐めて落ち着かせるはず。飼い主に求められるのは母猫のような愛情です。

災害が起こった時、なるべく猫に寄り添って、いつしよにいる時間を増やしてあげましょう。

第14章 災害時に逃げる時に役に立つ！猫に「おいで」を教えておこう

いつあるかわからない、地震、災害。わが家の猫は大のキャリー嫌い。部屋にいつもキャリーを置いて出入りできるようにしてありますが、絶対に入ろうとはしません。

イザ！という時は猫専特製の「落ち着くネット」に入れて逃げるしかない…。と思っていますが、その大事な「イザ！」という時、果たして猫が近づいてきてくれるのか、とても不安です。

東日本大震災の時、ある家庭で、犬はその場に固まっていたけれど、猫はすつ飛んで何処かへ隠れてしまい、地震がおさまると犬はすぐ平常に戻ったけれど、猫は隠れてなかなか出てこなかった、という話がありました。

猫は犬よりもビビりかも？ もしろん猫によって性格が違いますから一概には言えませんが、万が一の場合、猫を呼び寄せたい時、「おいで」を教えておくのと役に立ちます。

猫は性格上、「待て」などの「我慢をさせること」を教えるのは難しいですが、「おいで」は比較的簡単に覚えてくれます。

やり方も簡単なのでご紹介しましょう。

■猫に「おいで」を教える方法

- ①おやつで興味を引く…ご褒美のおやつを握った手を、猫の鼻先に近づけます。猫がおやつに気が付いたら、手を引いて猫を誘導してください。
- ②猫が近づいたらおやつをあげる…そのまま数歩後ろに下がり、猫が一步でも近づいてきたらすぐに手を開いておやつを与えます。猫がこの動作に慣れてきたら、後ろに下がって少しずつ猫の歩く距離を伸ばします。
- ③「おいで」と声をかける…次に、猫が歩き始める直前に「おいで」と声をかけます。こうすることで、猫は声の合図と動作を関連づけて覚えます。

④離れたところから声をかける：離れたところから「おいで」と声をかけ、猫が来たらおやつをあげます。最終的には声の合図だけでできるように繰り返し練習しましょう。

ポイントは、ご褒美にあげるおやつは毎日与えているものではなく、時々しか与えないスペシャルなおやつにすること、そして猫の集中力が切れないように、教える時間はごく短く、1回1〜2分にする。毎日気長に教えることで、猫も習慣になります。

巻末付録 「猫といっしよに避難するための「おすすめ避難アイテム」」

1. キャリーバッグ

犬と違い、猫の移動にはキャリーバッグが必需品。成猫の平均的な重さは4キロ程度。プラスキャリーの重さがずつしりと肩に食い込んでくるはずですから、キャリーは軽くてコンパクトな物が一番。普段からキャリーに入る習慣をつけておきましょう。ケージ使用時には折りたためるソフトタイプがおすすめ。

おすすめアイテム

■猫壺のポータブルキャリー

猫壺のポータブルキャリーは、重さがたったの438g。猫を入れて安全に運ぶために、軽いキャリーはとても重宝するのではないでしょうか。

こちらの商品もコンパクトに折り畳めるので、猫の多頭飼いをされている方は、猫の人数分買っておくと安心です。

あんしんポイント

1. 軽いから疲れない
2. 小さく折りたためる
3. 耐荷重6kgの丈夫さ
4. 通気性が◎
5. 撥水布を使用。水洗いも可。
6. 安全に運べる安全ネット付

2. ケージ

犬猿の仲、と言えば犬と猿のことですが、猫にとつてみたらそれはきつと「猫<の>ケージ」ではないでしょうか。狭いところに入るのが大好きな猫が、ケージを見た途端に逃げて行く、そんな光景は全然珍しくありません。しかしケージに猫を慣らす事は非常に重要です。いつ来るか分らない、地震・災害。東京都内でも30年以内になり高い確率で大地震が来ると予想されています。

ペットを飼っている方は「原則同行避難」が呼びかけられています。普段から猫にケージを慣れさせ、できれば猫が自分からケージに入ってくれるような訓練はとても大切です。

猫にとつてどんなケージなら好ましいのか、猫にケージ好きになつてもらうコツをご紹介します。

猫が好きなケージのポイント

ネコは人間に比べて視力はあまりよくありません。おおよそですが0.3程度だと言われています。

しかし猫の能力の中で一番優れているのが聴力。20メートル先の虫の歩く音も聞こえるという優れた聴力が猫の一番の武器。周りの情報も目ではなく耳から仕入れることも多いのです。

そんな猫にとつて、狭い空間でも耳をピンと立てておける高さ、音が拾えるように上が開くタイプのケージはとて有り難いでしょう。そしてケージの中でも聴力が妨げられない空間のあるケージなら、猫も中でリラックスできます。

ケージは軽いものを選ぶ

大体成猫の平均体重は4キロ程度。メインクーンなど大型種の猫の場合は7キロを越える個体もありますが、ほとんどの猫種が3、4キロ程度が平均です。

ケージで猫を運ぶ時、猫の重さが4キロだとしたら、ケージの重さが1キロ以上あった場合、軽く5キロをオーバーしてしまいます。

猫をケージに入れる、ということは、どこかへ移動するということ。病院、旅行、引越しいずれにしても猫にとつては大変なストレス行為。きつとニヤニヤ騒ぐかも知れませんが、騒ぐネコを運ぶのはたいへん。

5キロ以上の荷物を女性が運ぶのはとても難しいでしょう。スーパーでよく売られている5キロの米袋を思い出して下さい。

もし災害が起こって猫をケージに入れて移動すれば、あのお米の袋を持って数キロ歩く事と同じになるはず。

災害避難ですから、猫とケージ以外に自分の荷物もあります。それら全てを持って徒歩で移動することを想定すると、荷物の重さはかなり重くなります。

猫のケージは、できるだけ軽い物を選びましょう。

おすすめアイテム

■猫壺のポータブルケージ

猫壺の隠れたベストセラーがこのポータブルケージです。

ポータブルケージが選ばれる理由は3つ。①は「コンパクトに折り畳める」こと、そして②は「猫のトイレを中に入れられる広い空間」が確保出来ていること。そして③はとても軽量であること。

これなら災害時のときでも猫といっしょに持ち運べます。色も黒でとてもシンプル。ポリエステル製で水洗い可能ですから、汚れても安心です。

猫壺のポータブルケージは組立時のサイズは50.8cmx50.8cmx81cm、重さは1083g。それが折り畳むと30cm足らずの大きさになります。とてもコンパクトサイズです。

あんしんポイント

1. 小さく折りたためる

2. ネームタグ付き
3. 大きな側面扉にカーテン付き
4. 移動に便利な車用背面ストラップ
5. 撥水布だから水洗いも可。
6. 快適なフリースマット付
7. 収納ケース付

3. トイレ

猫はとてもデリケート。できれば緊急時も犬のように外でトイレをすませるのではなく、自分が落ち着く環境でトイレを使いたいと思っています。周囲に人がいても安心して排泄できるよう、ケージにコンパクトなトイレを用意しましょう。

おすすめアイテム

■猫缶のポータブルトイレ

このポータブルトイレは、37.5cm×12.5cm×27.5cmという猫にストレスを与えない大きさで、足掛けでき、砂の飛び散りを防止する十分な高さがあります。内側に厚い防水布を使用していますから、尿が漏れてしまっても沁み込みません。

あんしんポイント

1. コンパクトに折りたためる
2. 内側に厚い防水布使用

3.
水洗
可

この「猫のための防災マニュアル」は猫害のホームページに「読みもの」として掲載されたものを加筆編集したものです。

猫のための防災マニュアル

発行 2018年6月15日

発行者 竹内淳

発行所 株式会社猫壺

〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-15-1

セントラルパークタワー・ラ・トゥール新宿605号室

URL: <http://www.necoiichi.co.jp/>